

■目次

● 今月のことば	佐々木哲生
● 表紙のことば	
「牛さん かわいかったね」	大橋 功・1
● 巻頭言	
浄土真宗の子ども観と子どものいのち	牧野 桂一・2
● わたしの保育物語	
「おかげさま」で新たな一歩へ	小柳 妙子・4
● いま、学ぶ、越える	
共に成長	嶋田 実季・6
● 園児向け法話	
人間に生まれてよかったね	井上 龍秀・8
● 仏典童話	
ふとった王さま	野呂 昶・10
● 園長のつづやき	
「和顔愛語」 いつもニコニコって難しい!	久保 淳一・14
● 食育アラカルト・北から南から	
若葉保育園「後編」	須山 恵美・16
● 保育者の心に寄り添うカウンセリング	
対話することで	富田富士也・18
職員意識が出てきた保育士	
● なぜ?なぜ?先生	
ナモフカシギコーってどんな意味?	石川紀久子・21
● 仏教讃歌	
お彼岸	海谷 則之・24
● 「まごとの保育」のすすめ	
浄土の教えに生きる	川口 法之・28
● 教区だより	
「演じる」ことで大きく育つ子どもたち	

「牛さん かわいかったね」

竹市 麟音 (たけいち りお) 4歳

西浦保育園
(山口教区)

●表紙のことば●

おおはし いさお
大橋 功岡山大学大学院
教育学研究科

実際に遠足で牛と出会い、そこで体験した感触や気持ちを楽しく思い出しながらお話するように描いています。まずはホルスタインの特徴である白と黒の絵の具を使って伸び伸びと描き、次に、実際に見て印象深かった牛の特徴を丁寧に描いていったのがわかります。さらに、人物をクレヨンで描き込んでいますが、右上の人物はおちゃん自身なんでしょうが、牛の体まで手が伸びています。「大きな牛を触ったんだよ」という、りおちゃんの勇気ある行動が自慢げに表現されているのです。

この作品は、人物も牛も「頭足人」と呼ばれる特徴的な表現で描かれています。象徴期とも呼ばれるこの時期は、「顔」をシンボルとして用いながら、対象の全身、そのすべてを表すのです。実際に体験したからこそ描ける特徴はもちろんのこと、大きな牛を間近に見たり、触ったりしたときのドキドキした気持ちが伝わってきます。